

# 児童アンケートと教科問題、教科横断型問題結果との関係

児童アンケート結果と平均正答率と相関関係(※)があるものを示しました。

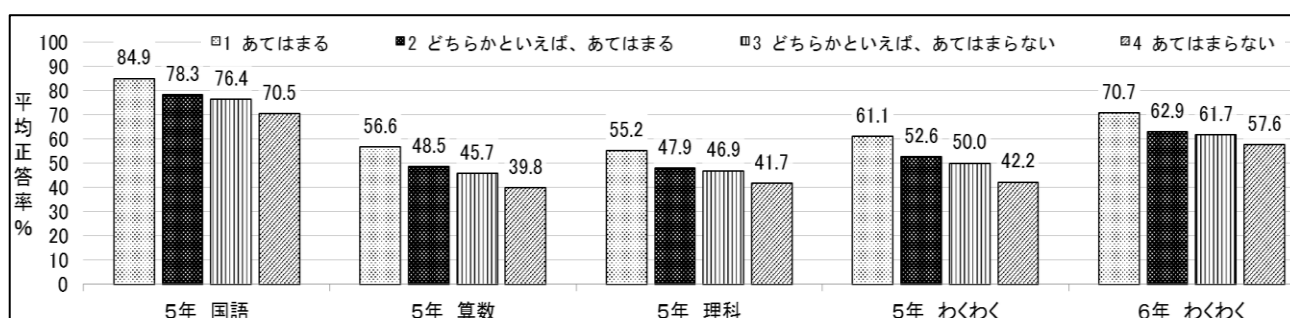
(※)2つの項目の間の何らかの関係性のこと。因果関係を示したものではありません。

左から順に「①当てはまる」「②やや当てはまる」「③どちらともいえない」「④やや当てはまらない」「⑤あてはまらない」と回答した児童の平均正答率を示しています。

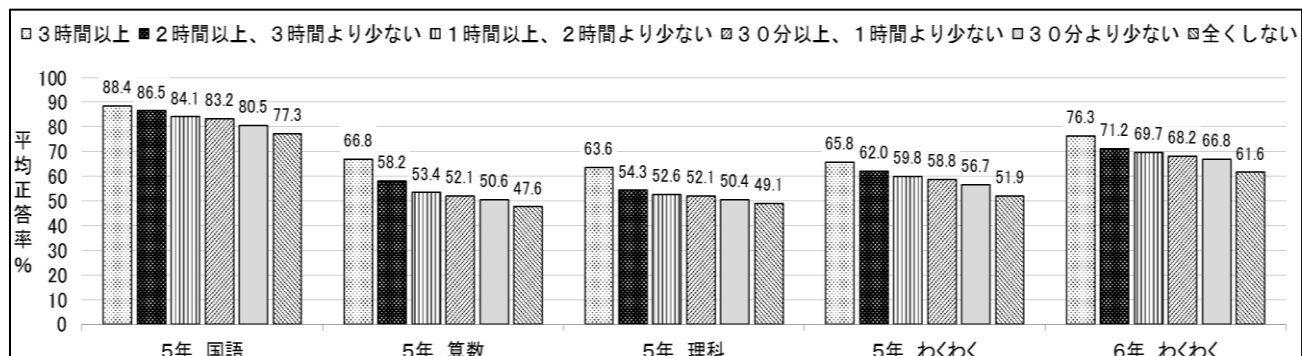
□1 あてはまる    ■2 ややあてはまる    □3 どちらともいえない    □4 ややあてはまらない    □5 あてはまらない

## ① 児童の生活習慣等と教科問題、教科横断型問題結果との関係

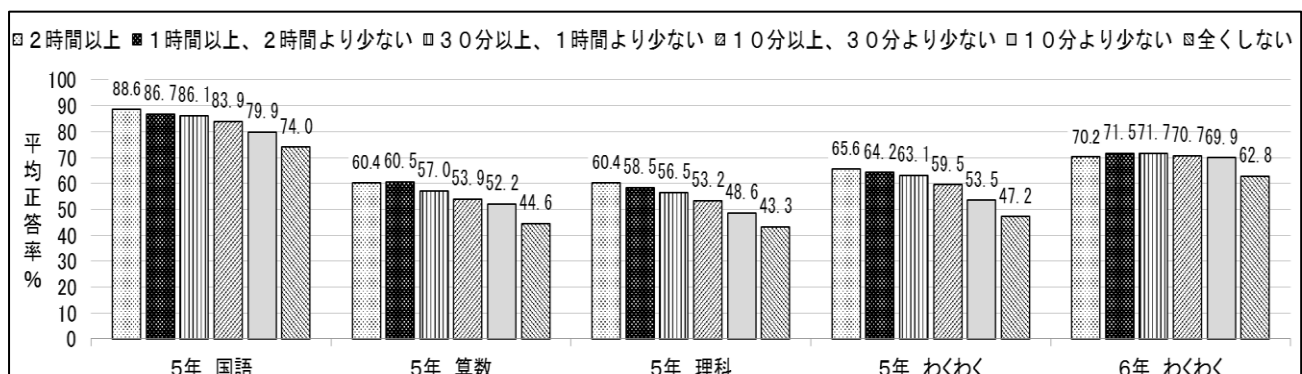
### 朝食を毎日食べている



ふだん（月曜日から金曜日）1日に、学校の授業や宿題以外に、およそどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

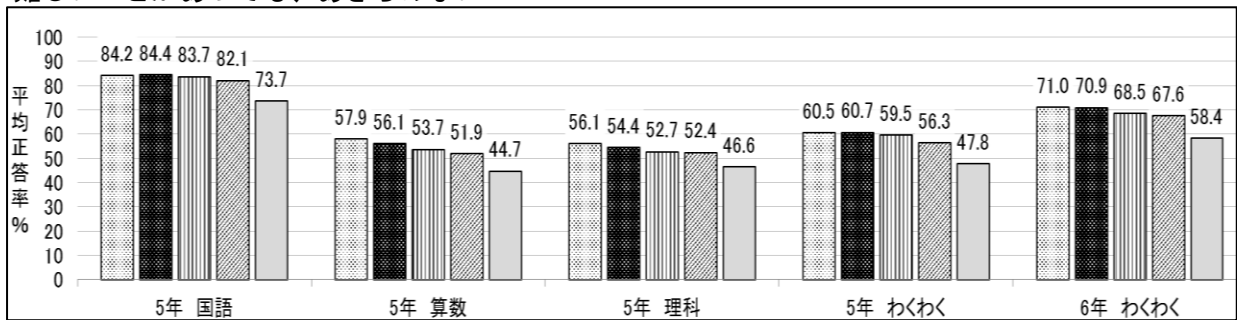


ふだん（月曜日から金曜日）1日に、およそどれくらいの時間、本（教科書は除く）を読みますか

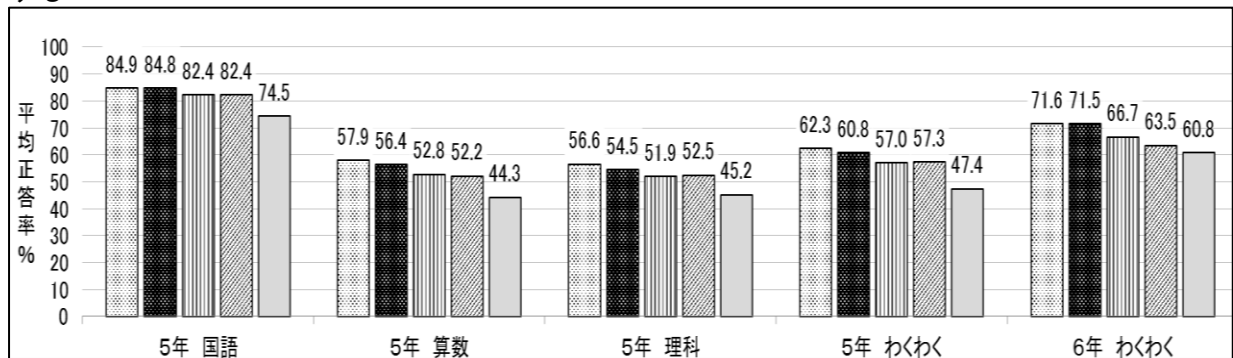


## ② 「未来に向かう力」「好奇心」と教科問題、教科横断型問題結果との関係

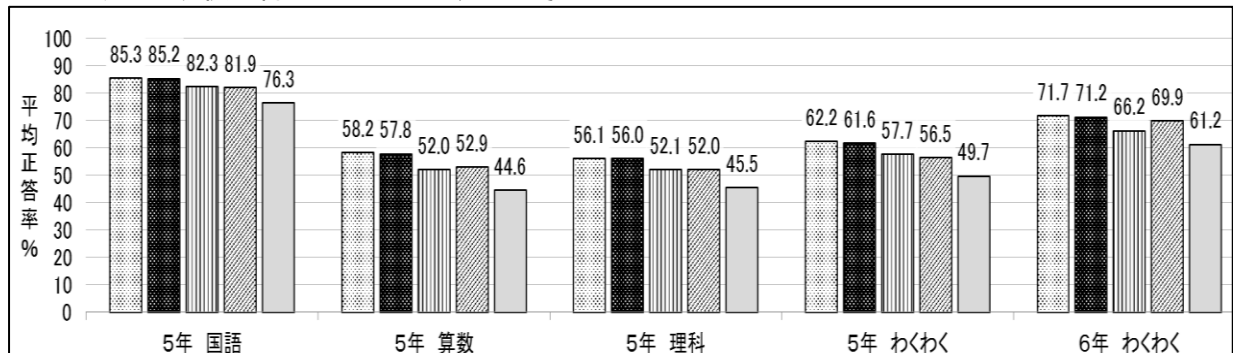
難しいことがあっても、あきらめない



自分と違う考え方の人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているかをわかってもらう

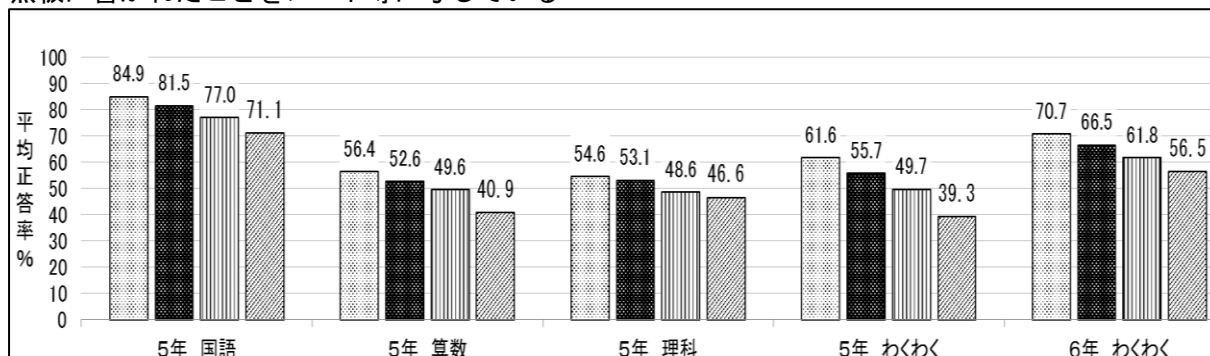


はっきりした明快な答えが出るまでずっと考える

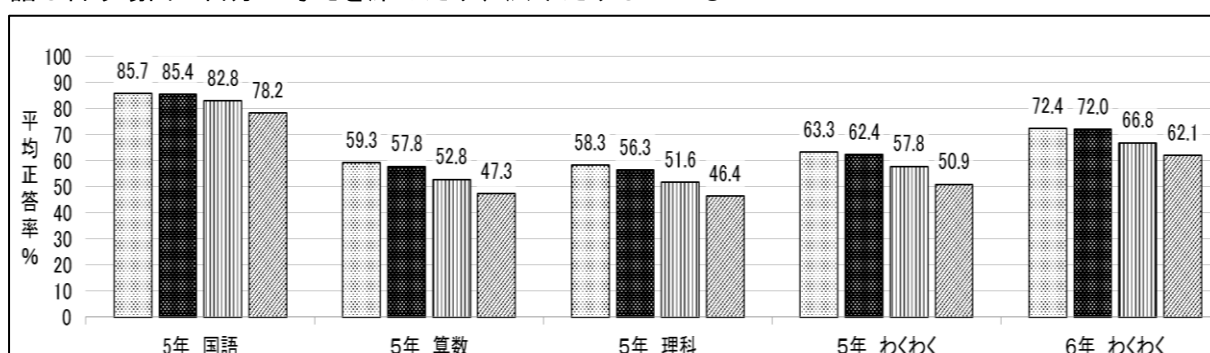


### ③ 児童の学校生活や学習状況と教科問題、教科横断型問題結果との関係

黒板に書かれたことをノート等に写している



話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたりしている



#### 児童アンケート結果と教科問題・教科横断型問題結果とのクロス集計から

児童の家庭での生活習慣・学習状況とのクロス集計からは、規則正しい生活である「朝食を毎日食べている」ことが平均正答率の高さに関係があることが示されました。また、「平日、学校の授業や宿題以外に勉強をしている時間が長い」ことや「平日に読書に取り組む時間が長い」ことが平均正答率の高さに関係しています。

非認知能力「未来に向かう力」・「好奇心」とのクロス集計からは、「あきらめない」粘り強さや「自分と違う考え方の人と話しているときに相手の考えを分かろう」と相手を理解すること、「答えが出るまでずっと考える」好奇心が平均正答率の高さに関係しています。これらの結果から豊中市の児童にとって、学校や家庭における児童の学習場面における粘り強く取り組むための支援や対話を用いた授業、好奇心を大切に学習支援などの教育的効果が考えられます。

児童の学校生活や学習状況とのクロス集計からは、授業で「ノートをとること」や「自分の考えを深めたり広げたりすること」が平均正答率の高さに関係していることから、伝える場面やノートを活用する場面で自分の考えを持つことや考えを深めたり広げたりすること、自分の考えを振り返ることの重要性が見られます。

